



手城小だより

福山市立手城小学校
2024年(令和6年)
9月17日(火)

【学校教育目標】 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

—5年生— 認知症を知り、みんなで支える

5年生が福山市包括支援センターの方々を講師としてお招きし、「認知症にやさしいまち、手城」をめざして、認知症について学び、自分にできることを考えました。

「認知症ってどんな病気？予防や治療は？」「認知症になったら何もわからなくなるの？」「認知症の人がいたらどうしたらいいの？」「家族にどんな声かけをしたらいいの？」といった疑問を、パワーポイントや絵本を通して丁寧に話していただきました。子供たちは、周りや地域に認知症の方がいるかもしれないということ想像しながら話を聴いていました。

最後に、講師の先生が「認知症に正しい知識をもち、正しく理解をすることがスタートです。自分でできることを考えていきましょう。普段から友達や家族、お年寄りにやさしくしてください。」と締めくくられました。子供たちは、「認知症の人を応援します」という意思を示す証として、「オレンジリング」「認知症サポーターカード」をいただきました。



認知症サポーターカード

お話を聴いて・・・

- 私の家族にも認知症のおばあちゃんがあります。でも、何をしてあげたらいいのかわからなかったけど、今日勉強してよかったなと思いました。これからは、おばあちゃんにお手伝いをしたいです。
- 「認知症」という言葉は知っていたけど、認知症が進むと記憶のツボが小さくなって覚えられなくなったり、忘れたりするんだと初めて知りました。
- 認知症は想像以上にその人自身も、介護をする人も大変だと思いました。話しかけるときは、後ろではなく、前から話しかけたり、優しく声をかけたりすることが大事だとわかりました。正しく理解をして、お年寄りを大事にしていきたいです。
- 認知症の方とかかわるとき、「おどろかせない」「いそがせない」「きずつけない」「ちがうよ、など」は言わない」この4つのポイントがあると教わりました。

—4年生— ばらのまち福山 Rose & Peace 教育

4年生は総合的な学習の時間に「平和」をテーマに学ぶ中で、福山市がばらのまちと言われるようになったことを知りました。また、学校のバラ園のお世話も請け負っています。

そこで、福山市のばら苗担当をされている学校技術員の方を講師にお迎えして、ばらのまち福山について学びました。「ばらのまち福山の歴史」「ローズマインド」「ばらの名がつく施設の紹介」「ばらに関するイベント」「世界バラ会議福山大会」「ばらの種類やお世話の仕方」などを絵や写真を示しながらクイズを交えてお話してくださいました。

その後、学校にあるバラ園に行き、剪定の仕方について実演していただきました。これから秋のバラを楽しむために、樹高が高すぎる株や株姿が乱れたものを、全て同じ高さにして一度リセットすることで開花を揃えることができるかと教わり、子供たちは、二人一組になって剪定ばさみで剪定していきました。初めて剪定作業を行う子供たちでしたが、ばらの様子をじっくり観察しながら、優しく手を添えて一本ずつ丁寧に枝を切っていました。

花壇の雑草を取ったり、剪定したりとお世話は決して楽なものではありませんが、子供のころから、ばらに親しむことで、「元気に育っているかな」と当たり前のようにばらを気にかけてあげられるような思いやりをもった人になってほしいと思います。



—5年生— ようこそ先輩「大学生生活と夢」

5年生が卒業生である佐藤卓哉さんから「大学生生活と夢」についてお話を聴きました。

佐藤卓哉さんは、現在、県外の大学で学ぶ教育学部の2年生です。小学校教員を志し、母校である手城小で1週間のふるさと実習を行いました。そこで、小学校の先生をめざそうと思ったきっかけや、先生との出会い、小中高時代の経験について、親元を離れて初めての一人暮らしや大学の勉強、部活、アルバイトなどを通して、「親に感謝すること」「あきらめないこと」を熱く語ってくださいました。



- 大学の学園祭のアカペラの動画を見て、佐藤先生がされているボーイパがかっこいいなと思いました。大学は勉強だけでなく、これから社会に出るために色々な経験ができるところなんだと分かりました。
- 私には夢はあるけど、才能がないからあきらめようと思っていました。でも、佐藤先生のお話を聴いて、やっぱりあきらめずに最後まで頑張ろうと思いました。
- 小学校から大学までの道のりを話していただき、大学は楽しそうだなと思いました。私も大学に行ってみようと思いました。